

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73210	3	前期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助） (Health Promotion of Gerontological NursingⅡ)				
担当教員名	山本 由子／山花 令子				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要 本科目の目的は、高齢者に多い認知症を持ちながら生きている人と家族への看護を通して、高齢者ケアの基本的な考え方や看護方法を学習することにある。</p> <p>当授業は2部構成からなる。1部は、認知症を持ちながら生きている人と家族への看護支援について学習する。2部は、特別養護老人ホームに入所しているアルツハイマー型認知症を持つ高齢者と家族の事例について看護過程演習を行い、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱでの学びを統合するとともに、高齢者ケアの基本的考え方や看護方法についての理解を深める。</p>					
<p>到達目標 ① 認知症という病や障害の特性や老年期の特徴を理解し、認知症を持ちながら人生の最終ステージを生きている高齢者とその家族への看護支援方法について説明できる。</p> <p>② 事例（認知症を持つ高齢者と家族）検討を通して、アセスメントから看護の必要性の判断、看護計画の立案までの看護過程について説明できる。</p> <p>③ ①②を通して、高齢者ケアの基本的考え方や看護方法の特質について説明できる。</p>					
準 備 学 習 等					
<p>①老年看護援助論Ⅰの最終授業日に提示した事前課題（脳の構造と働き）について予習し、初回授業時に提出すること。</p> <p>②第1回目の授業時に授業資料を提示するので予習をして授業に臨むこと。</p> <p>③事例検討においては老年看護援助論Ⅰで学んだ内容も含むので復習をして授業に臨むこと。</p>					
成績評価の方法	小テストの成績 10%、中間試験及び定期試験の成績 70%、看護過程演習レポート 20%で評価する。				
テキスト	・ 正木治恵他，老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは，南江堂，2016 ・ 真田弘美他，老年看護技術「最後までその人らしく生きることを支援する」，南江堂，2016				

参考図書	「新老年学」、折茂肇編：東京大学出版会 「これからの老年学」、井口昭久編：名古屋大学出版会 「痴呆症のすべて」、平井俊作編：永井書店 「第二の認知症」、小阪憲司著：紀伊國屋書店 「痴呆老人からみた世界」、小澤勲著：岩崎学術出版社 「私は誰になっていくの?」「私は私になっていく」、クリスティ・ボーデン著、桧垣洋子訳：クリエイツかもめ
備 考	①本科目は、老年看護援助論Ⅰで学んだことを基本に障害を持つ高齢者への看護へと学びを発展させる科目であるので、老年看護援助論Ⅰを復習しておくように。 ②第3回～7回の授業の最後に小テストを行う。 ③本科目の単位取得は、老年看護学実習の履修前提条件である。 ④各教員のオフィスアワーについては、デスクネッツを参照してください。
授 業 計 画	
第1回 第2回 第3・4回 第5回 第6・7回 第8回 第9回 第10回 第11～14回 第15回	老年看護援助論Ⅱのガイダンス 「認知症ケアー早期診断 そして人生は続くー太田正博さんの10年」視聴 「認知症の人から学ぶークリスティーン・ブライデン講演より」視聴 認知症の病態・診断・疫学的背景、BPSD、治療法について 認知症を持つ高齢者の体験世界からみた生活上の困難と看護について 認知症を持つ高齢者へのケアの方向性と看護に活用できる諸理論について 「認知症の人との超コミュニケーション法 バリデーション」視聴 認知症の人のためのケアマネジメントーセンター方式ーについて 11回～14回に実施する看護過程演習のガイダンス 中間試験 看護過程演習 ・アルツハイマー型認知症を持つ高齢者と家族の事例を取り上げ、個人ワークとグループワークで全体像の把握と看護の必要性の判断までを行う。 まとめと授業評価